

第1回 学校運営部会 議事録

(1) 日 時：令和8年7月16日（木）午後7時より（教育会館第5研修室）

(2) 参加者：委員（11名）欠席1名、事務局6名

(3) 内 容

① 部会長あいさつ

② 協議報告事項

(1) 中高連携推進委員会より

- ・ 教育課程部会 ・ 生徒支援部会
- ・ 進路支援部会 ・ 英語部会 ・ 数学部会 ・ 探究部会

(2) 閉校・開校に係る諸行事について（案）

(3) 学校説明会

- ・ 令和9年度中学校入学生交流会・勝山中学校説明会（案）
- ・ 令和8年度勝山中学校説明会（中学校1,2年生対象）（案）

(4) マイナンバーカードについて

③ その他

《部会長あいさつ》（省略）

《協議報告事項》

（中高連会推進委員会より）

部会長 ・最初に本日の会議の進め方について事務局から説明をお願いします。

事務局 ・それでは、本日の会議について説明を申し上げる。本日は報告事項が中心となる。四つの議題について報告させていただいて、皆様方から意見をいただければと思う。まず一点目は勝山中学校の学校運営について、中学校と高校の先生で構成されている中高連携推進委員会という組織がある。そちらに各部会があり、細かなことを協議いただいている。この部会での協議内容について、報告をさせていただき、それについて、皆さん方から意見をいただきたい。次に令和8年度末から9年度初めにかけての閉校式、開校式について。大きな行事が続くが、この日程について報告をさせていただきたい。三つ目は令和9年度の入学生に対する説明会並びに現在の中学校1、2年生の皆さんに対して、どのような説明を行なっていくといいかということをお案を参考に意見をいただきたいと考えている。最後はマイナンバーカードの利用について、提案をさせていただくので、皆様方から意見をいただきたい。以上の四つとなるので、よろしくお願いいたします。

部会長 ・今ほど事務局から、協議内容についての進め方の説明があったが、何か意見や質問はあるか。よろしいか。では、中高連携推進委員会の各部会からの協議内容についてお願いします。

事務局 ・それでは報告をさせていただく。資料の1番をご覧ください。まず全体の構成だが、中学校と高校の先生方、中学校の先生方は3中学校があるので3人の先生、高校の先生は1人来ていただいて、部会を構成している。資料1に書き上げた1番から6番までの部会がある。六つあるので、途中で一旦切らせていただく。まず教育課程部会と生徒支援部会について、説明をさせていただく。教育課程部会については、いわゆる学校の教育計画であるが、

どのような学校運営をしていくのか、学校行事、施設の利用等について、協議を進めている。それぞれ第1回に協議をした内容をポイントだけまとめたものである。現在令和9年度の年間行事をどのようにしていくかということ。大きな行事があるので、例えば入学式とか、始業式とか、その時に体育館とジオアリーナをどのように高校と分担して使っていくかということ。それから行事としては定期考査や、学校祭、体育祭、避難訓練などの日程を協議している状況である。今後は年間行事を中高で調整して、施設利用の重複を避けることを年頭に協議を進めていきたいと思う。今後は入学説明会とか、登校シミュレーション等今年度やらなければいけないこと。それから次年度に向けては、新しい中学校の時間割をどのように組んでいくのかということ、あるいはクラス編成については、1年生から3年生まで全てが新しいクラスを作るので、どのような形でクラス編成をするのか、生徒の皆さんにとって一番安心できる構成になるのかということを考えながら先生を進めていく。こういった活動について、協議を進めている。次に生徒支援部会だが、これについては、生徒会の活動と、生徒指導上の約束ごとを基本に協議を進めている。特に生徒会活動というところでは、生徒会の組織をどのように決めていくのか、特に三つの学校から集まるので、どのように生徒会長を選出していくのか、あるいは三つの学校の代表が、何がしかの形で学校運営に関われるような、役員の選出方法を協議するという、あるいは生活上のルールとして、身なり等のルールが三つの学校で若干ズレがあるので、その辺りをどのような形で統一していくのか、それから部活動のことについては、特にこの体育館の利用とか、登下校のルールについて、協議をしている。基本的には、新しい中学校については、できる限り生徒が主体となる生活ルールを考えていくということで、生徒の協議によって、どのような学校生活がいいのかということ、既に各中学校でその原案となるようなことを協議し始めていただいている、新しい年度に向けて準備をしているということである。それから、部活動については、体育館の利用について、高校と中学校担当の先生方で協議をしている。部活動については参考資料をつけたので、一番後ろから2枚目の資料をご覧いただきたい。実は初めて聞かれる方もおられるかと思うが、現在部活動については、休日の学校の部活動をやめて、地域の認定クラブで進めていくという活動を進めている。その関係で若干システムが複雑になっているが、部活動だけに焦点を絞って言うと、その表の1番から11番までが現在の中学校にある部活動である。基本的な方針として、部活動については新中学校には現在ある部活動はそのまま存続するという方針で動いているので、この11の部活動については、そのまま勝山中学校にも設置するという方針で考えている。それぞれの部活動については、土日の活動がなくなるので、土日についてはその一番右側だが、この認定地域クラブの中で活動をしていくという形で今体制を整備しているところである。上にある1番から11番までが、学校にある常設の部活動ということだが、認定地域クラブというものの設置の趣旨としては、子ども達の活動の選択肢を狭めないということで、地域の皆様方の力もお借りして、子ども達が様々な活動に挑戦できる環境を整えるといった意味もあって、12番から21番までについては学校に常設部としてはないが、地域のクラブとして活動を進めるというこ

	とで、現在一番右側に書いた各クラブが、新たな活動場所として認定を受けていただいて、それぞれに活動を進めているという状況である。参考までに勝山高校には、どのような部活動があるのかということで、そこに印をつけさせていただいたが、今後はこういったところと、どのように連携ができるのかというあたりも何か可能な道があれば検討していきたいと考えている。以上が生徒支援部会の報告である。駆け足で話をさせていただいたが、分かりにくい部分もあろうかと思うので、質問と忌憚のない意見をいただければと思う。
部会長	・教育課程部会、それから生徒支援部会、二つの部会について何か意見、質問があったらお願いしたい。
委員 1	・2 番の生徒支援部会の中の移動方法だが、バスの便が限られていると思う。部活動で一番最後の便に乗ろうとしていたのが乗れなかった場合、どういう対応になるのか。
事務局	・これは定時定路線なので、一般の方も利用できるということで、その時刻を、まだ終わってない部活があるから待っているということとはできない。従って時間になったら出てしまう。部活動をしていて、それに乗ろうと思うのなら、それまでに部活動を終えて間に合うように来ていただかないと乗れないということになる。最悪そういう事態になったら、お家の人とかに対応していただくしかなくなってしまう。
委員 2	・部活の最後の時間はだいたい 18 時ぐらいか。
事務局	・一応、部活は 17 時 40 分には終わるようになっている。だから、バスに乗れるようにそこで終わっていただくという計画をしている。
委員 3	・多分間に合うようになっていると思うが、本当に不測の事態、例えばお腹を壊してしまってトイレから出られなかった。乗りたかったけれど乗れなかった。バスは行ってしまった。18 時ぐらいだったら、お父さん、お母さんは仕事がまだ終わらなくて、どうしても残らざるを得なかったというケースは、なきにしもあらずではないか。まず学校がそもそも開いているのかどうか心配。そういうケースを何か想定されたりしているのか。
事務局	・それは朝でも言えるかもしれない。バスは定時定着線なので行ってしまうため、自分で対応できるならお家の人に連絡していただくとかになるし、もちろん学校の教員に相談していただいて、どうして帰ろうかということになると思う。だから学校も閉めたから、知らないというそのようなことにはならないと思う。
委員 4	・その場に残ることはできるということか。
事務局	・一方で、高校の部活は夜の 7 時まで残っておられるので、誰もいないということはないと思う。
事務局	・基本的に今言われていたようなことについては、部活動は教職員もいるので、バスの時間に間に合うように終わるし、終わった後、早くバス乗り場に行くようにという指導は、当然教職員はする。また不測の事態になった場合には、部活が終わったからといって教職員が全員すぐに帰ってしまうわけではないので、職員室等には先生方がいるし、最後見回り等もあるので、職員の方には言っていただければ、保護者と連絡を取っていただけるという対応ができるので、それは心配されずに見ていただきたい。今までも、各中学校で部活動

	をしているが、そういった対応はしている。ただバスは今言ったように、定時定路線で出発しないとバス停で待ってる方が、乗れない可能性があるので、出発してしまうということだけは、生徒さんにも伝えていただきたい。我々もそういう指導をしていくので、どうかよろしくをお願いしたい。
部会長	・また、先生方にお手数をかけるかもしれないが、生徒がしっかり帰れるように願います。他にはどうか。
委員 5	・部活動の活動場所で、今検討している場所が、いくつか出ているが、敷地外があり、公道を歩いて移動して、その場所まで行かなくてはいけないというところがあるように見受けられる。その辺りの安全策というか、先生が一緒に行くのか、子どもだけで行き来するのかどうか。道具を忘れたと言って学校に戻るようなことがあったりする時のことは想定されているのか。
事務局	・今の指摘は、例えばサッカーだと成器西小学校が使えないとか、あるいはソフトテニスだと、これも成器西小学校の隣になるが、市営の庭球場までということになるかと思う。基本的に、ここまでは単独で行くというよりも、集団で行っていただくような形が望ましいかと思うが、そのところの安全確保ということについては、現時点で場所をここにしようというところまでしか決めていないので、引き続き検討していきたいと思う。そこで事故があっただけではないので、そのあたりについても、十分考えていきたいと思う。今のところ先生がついていくようにするとか、そういったことを決めているわけではないため、そこまでということで、よろしくをお願いしたい。
部会長	・安全の検討をよろしくをお願いしたい。教育課程のことで、前期後期でやる市町もあれば、三学期制でされる市町もあると思うが、その検討はしたのか。
事務局	・今までの議論の中で、二学期制という話題は一回も出ていない。基本的には現状の勝山はずっと三学期制でやっているの、そのまま三学期制を前提として、行事を組んでいるという状態である。
部会長	・よろしいか。では、次にいかせていただく。では、進路支援部会からよろしく願います。
事務局	・引き続き、今度は3番から6番までまとめて報告をさせていただく。進路支援部会については、特に高校との連携ということで、どのような連携の仕方をするのか、もう一つはいわゆるキャリア教育といって、将来的にどんな生き方をしていくのかということを、早くから考えていただいて、自分の夢を持ってこの進路を選択していただこうと、そういったことのために、どのようなカリキュラムがいいのかということを検討している。この中では、特に勝山高校との連携生徒、いわゆる勝山高校へ進学しようとする生徒については、2年生の終わりぐらいに希望を取って、早くから高校進学を考えた上での勉強を進めてもらうという制度を取り入れたいと考えている。そのために希望する生徒を、どのような形で募集をしたらいいか、どのような形で高校と接続していったらいいのかということについて、検討を進めている。二つ目の連携プログラムというのは、その連携生徒の皆さんについては、学力試験によらない入試を想定しているので、それに代わるプログラムとして、放課後に講座等を受けていただくようなことができないかということも協議している。三つ目は、連携校である一つの特色として、高校の先生が、中学校の数学と英語だが、こういったところに入っていて、サポートしてい

ただくというシステムを取り入れたいと考えている。これについては特に、高校を希望する子だけではなくて、全員その恩恵を受けることができるようにということで、高校の先生がどのように入るといいのかも考えているという状況である。それからキャリア教育として、将来のことを考えて、自分の学びを進めていくということで、今年度から核になる活動として、ライフデザインリレー講座というのをはじめている。これも参考資料を付けさせていただいた。一番後ろにある資料だが、ご覧いただきたい。簡単に申し上げると、1年生から3年生まで全ての生徒の皆さんを対象に自分の将来の生き方を考えてもらうような機会を持つというのがこの講座で、その講師には、学校の先生ではなくて、地域の方々だとか、高校の先生だとか、そういった方々に入っていて、様々な情報を教えていただく。こんなふうに仕事をしているとか、こういう仕事って喜びがあるとかを、聞いていただいて、自分の進路に活かしていただくと、こういった趣旨のものだが、その下に表があるが、7月10日までで半分ぐらいのところまで進んでいて、今年度3中学校の方に様々な企業の方々が出向いていただいて、それぞれに仕事の魅力であるとか、その仕事に今の勉強がどのように生きているのかという話とか、いろいろ聞かせていただいている。すべての講座を私は参観させていただいているが、子ども達は非常に目を輝かせて、聞いていたように感じているし、企業側の方々も非常にいろんな形で工夫をしていただいて、子ども達に関心を持ってもらえるような、パフォーマンスをしていただいたように感じている。こういったものがさらに充実するようにするにはどのようにしていくといいのかも、この部会の中で検討を進めていく予定である。実はこういったことは勝山高校でもよく似たことをやっていて、これが6年間通して、系統的に、上手に積み上がっていくといい活動になるのではないかと考えている。次に英語部会である。先ほど申し上げたように、英語の授業の方には高校の先生が入っていただくということで、どのような入り方をするといいかが一つテーマになっている。もう一つは英語と数学については差がつきやすい教科でもあるので、極力手厚く指導をしていきたいという思いから少人数の学級を編成して授業を行おうと考えている。実際に中学校が始まると、通常クラスで5クラスできるが、例えば5クラスを7クラスに分けて、一度に英語の授業をするとか数学の授業するといいのだが、7人も8人も先生がいるわけではないので、3クラスを四つの講座に分ける、2クラスを三つの講座に分けるような形で、できるだけ少人数で、子ども達に勉強が分かりやすく、教えていただけるような環境を作りたいということを考えている。このクラスをどのように分けたらいいのかということ、英語なり数学なりの先生が集まって考えていただいているという状況である。場合によっては、理解がなかなか難しいお子さんに集まっていただいた方が、分かりやすいかもしれないし、そうすると子ども達が引け目を感じてしまうから、普通に分けた方がいいのではないかという意見もあるし、そのあたりを、どのような形が一番望ましいのかということ、協議していただいている。同様に数学の方も実は同じテーマで考えていただく予定なのだが、1回目の会議を7月28日に数学の方は開催する予定である。最後の探究部会だが、こちらの方は勝山高校が探究特進科という科をつくられて、先進的な取り組みを進められ

ていることもあるが、6年間を通して探究活動、あるいは先ほど進路支援で申し上げたキャリア的な話を、どのように積み上げていったらいいのかということ協議している。まずは6年間でどのような形で積み上げていったらいいのかということの一つの図表に表すようなキャリアストーリーと呼んでいるが、そういったものを今検討している。それから中学校の総合的な学習の時間が、2、3年生で週2時間程度あるが、こういった中で子ども達が主体的に課題を持って、探究していくという活動をそれぞれの学校で取り入れていただいているわけだが、現在は中学校と高校それぞれ別々にやっている状況なので、それが、少し系統的になるようにするにはあるいは子ども達がより自然な形で自分たちで探究していくということを楽しみながら学べるような形にするにはどのようにしたらいいのかということで、年間計画的なものを考えているのが二つ目のものである。それから、探究学習というのはいわゆる数学や英語と違って、何ができたら何点というような性質のものではない。特に答えのないような問いに対して自分なりの回答を見つけて進めていくものなので、そういった意味では自分自身でどういう力がついたのかなということ、自己評価していくということが重要になってくると考えている。この評価の基準になるようなもの、例えば人前で話をする時に大きな声で話ができますとか要点をまとめてしっかりと話が伝えられますとか相手の理解の度合いを見ながら自分の説明が加えられますとか、それぞれ段階があるので、そういったものを今どこまで自分ができているのかということを一覧表にしてまとめたもの、ループリックと読んでいるが、こういったものを、高校では頻繁に使っているが、中学校では馴染みがあまりないので、中学生に下ろした場合にどのような形で自己評価をしていくようなものさしができるかなということを考えているのが、三つ目のものである。こういったことで現在その作業を進めているところで、これができると、中学校でやっていることがどんどん高校につながっていくというスタイルになれば、子ども達にも効率的に力がついていくのではないかと考えて、協議しているのがこの探究部会の取り組みである。以上、少し駆け足だが報告である。

部会長 ・今四つの部会について説明があったが、数学部会は7月28日に開催予定ということで、三つの部会で意見、質問等あったらお願いします。探究の方だが、この探究部会の方で、方向性ということで、新たな活動を増やすのではなく、既存の行事や地域学習を探究化するという事になっている。例えば先ほど教科ではないと言ったが、教科または探究になるか。そういう子ども達が例えば理科だったら理科を深く探究したいという生徒がいても、これはなしということなのか、そこに地域学習等という等が入るのか。

事務局 ・実は、皆さんも探究というと、どんなイメージかというと、勝山の人口をさらに増やすにはどうしたらいいだろうとか、新しい勝山の名産を作り出して売り出そうとかそのイメージがあるかと思うが、現状の中学校の時間割の中で、この総合的な学級の時間というのはあまりたくさん時間がなく、非常に混んでいるという状況になっている。そういう状況を考えた時に、例えば新しい学校に何十人かの方が集まった。その時に一番子ども達が不安に感じるのは、ちゃんと友達ができるかなとか、ちゃんとクラスがいいクラスになるかなということになるかと思う。そういった時にそれを探究のテーマにし

てはどうだろうか、いいクラスを作るためにはどうしたらいいのだろうかということテーマにみんなが探究していくというような取り組みも自然な流れではないかという意見があって、そういったものを取り入れていけば、無理に何か新しいものを入れて、混み合うようなことよりも、学校なり学級なりが必要としていることを探究していくというようなこともいいのではないかという意見があって、このように書かせていただいている。同様のことは、例えば3年生になって、体育祭という一つの大きな行事があるが、それをいかに成功させるか、成功とは何ぞやというようなことを議論して、どのようなものを目指していくのかということを探究するというのも一つの流れとしていいのではないかという意見でこのように書かせていただいている。ただ、部会長の方から意見があったように、例えば理科の分子がどうのという話をさらに探究していくというのが当然あっていいわけだし、そういった時間を、子ども達が自分の関心に応じて、進めていくというような時間はぜひ設定をしていきたいと考えているので、決して今言われるような、探究であるとか、先ほど申し上げた勝山の人口がどうかということもやらないというわけではないので、そういったものも上手に組み入れていきたいと考えている。一つ補足だが、勝山高校の場合は、特徴として個人探究をされている。一人一人が自分の感心に応じたことを探究していくという設定をされているので、実は今すでに中学校の3年生がそういったことができないかということで、挑戦を始めているところである。そういったことを考えると、様々な探究の内容が出てくるということも想定をしている。

部会長 ・ 個人探究は自分も賛成だが、実際の地域学習は、それで何年か経つと、行き詰まってしまうことがある。地域の行事とかもやっているのに、最終的には個人探究という部分もあってもいいのかなと思って言わせていただいた。他に何か。

委員6 ・ ライブデザイン講座、ねらいというところで、生徒一人ひとりが将来の生き方に目標を持ち、主体的に進路の選択ができる力の育成を図ると書いてある。今ここに書かれている講座を見てみると、勝山の企業さんが多いと思うが、そこで学べることも、いろいろあると思う。働くということに対して、この講座を受けて、就職をするということになると思うが、この世の中、ただそこに勤めて働くということも大切だと思うが、自分で何か職業を探して自分の力で会社を作るとか、例えば今勝山でもエステやネイルサロンなど、いろいろな個人事業をやられて、自分でお金を稼いでいる人がたくさんいると思う。多分子ども達は知らないことが多いと思う。こういう講座の中でもただ働きに行くではなくて、自分からお金を稼ぐ、自分でそういうことを学んで稼ぐ力というのも今後大切ではないのかなと思っている。講座の中でも企業さんとして働くという勉強ではなくて、自分の力で何かの目標で働く力をつけるという人の講座も何かあったら申し込むのではないかなと思う。

事務局 ・ 全く同感で、まさに自分で起こすという、起業するというようなことについても、ぜひ子ども達に伝えたいなと思っている。実はこの中にも起業されている方がおられる。具体的なことは言わないが、勝山で新しくこういった職業を始めてという方も、職業の中でジャンル分けをすると、何とか業みたいになってしまうが、新規に新しい会社を起こされて、やっておられる方もい

らっしゃるし、さらには、聞いていて頼もしいなと思ったのは、勝山のまちを盛り上げるために、例えばまちづくり会社とか、JAMの方々の話というのは単に仕事をする事の喜びだけではなくて、勝山っていいところなんですよというところを盛んにアピールされている。そういった意味で、新たに自分の仕事を起こすということも大事だと思うし、自分の故郷に誇りを持つことも大事だと思うし、様々な視点からこの講座が良くなるといいなと思っている。実は先ほど申し上げたように、この進路支援部会の中では今年度試行的に始めたが、今ほどの意見も参考にさせていただいて、どのような講座がいいのかということをもさらに高めてまいりたいと考えている。

部会長 ・他に何かあるか。これは例えば、講座がたくさんあるが、体験というのは計画にはないのか。

事務局 ・実は、この講座についてはどうしても学校でやるので、いろんなものを持ち込んで実際にやってみるのは難しい状態である。その中で、今回の講座はすべて商工会議所さんに協力をいただいてやっているわけだが、10月26日、産業フェアというのがある。これはジオアリーナに、いわゆる商工会議所さんが主体になって、様々な企業の方々がブースを出されて、そこでまさに体験的なことをいろいろやらせていただけるような機会がある。こういったところにも1年生の子達が、参加をしていただいて、実際に体験をしてみるという活動も取り入れていきたいと考えている。

(閉校・開校に係る諸行事について)

部会長 ・他にはよろしいか。では中高連携推進委員会よりの(1)を終わって、次に(2)の閉校・開校に係る諸行事について事務局から願います。

事務局 ・これにつきましても、私の方から説明をさせていただく。資料2をご覧ください。令和8年度末の行事について、説明をさせていただく。既に決定している内容については、日程を入れてあるが、まだ未定のものについては下旬という表記にしてある。まず今年度末、令和9年3月8日が3中学校の卒業式となる予定である。それが終わると、現在の中学校2年生の皆さんは、3年生になると、今のクラスが変わって新しいクラスができる。その新しいクラスになって修学旅行に行った方がいいのか、今の最後の学年学級で修学旅行に行った方がいいのかということを、協議をさせていただいて、修学旅行は3日ほどだが、それまでにひと月かふた月かけていろんな準備をしていくので、それを考えると新しくなってそれから準備したのでは、なかなか間に合わないだろうということで、2年生の末に修学旅行をする計画をしている。そういったことで、3月の10日から12日まで卒業式のすぐ後ということになるが、2年生が修学旅行へ行くことになっている。修了式については、3月18日を予定していて、例年だともう少し遅い時期になるが、今年度に関しては引っ越し等の作業が色々入ってくるので、少し繰り上げて18日を目途に考えている。その後完成式だとか、離任式とか、これは人事の発表とか工事の進捗状況にも関わってくるので、その状況を見せていただきながら、3月下旬にお披露目の会となる完成式であるとか、先生方の離任式とかを実施していきたいと考えている。現時点ではこの3月30日を3中学校の閉校式と考えている。次に9年度初めの行事だが、開校式と入学式を、詳細はまだ検討中だが、できるだけこの開校の式典に1年生の子も一緒に入ってもらった

方がいいのではないかと。それからPTA総会については、4月18日を最初のPTA総会に検討されていると聞いているので、そのように書かせていただいた。開校閉校に関わる諸行事については以上である。

部会長 ・ 閉校・開校に係る諸行事について質問等はいかがか。

(学校説明会について)

部会長 ・ よろしいか。では閉校・開校に係る諸行事についてはよろしく願います。それでは(3)の学校説明会について事務局から願います。

事務局 ・ 資料3をご覧いただきたい。細かく書いてあるが、まだ案の段階なので、今後の変更は皆様方の意見を参考にさせていただきながら考えていきたい。まず、現在の小学校6年生を対象とした交流会、説明会について説明をさせていただく。この会については、一昨年度から11月末に市内の6年生の皆さんに集まっていたき、開催してきた。これまでは三つの中学校に進学するという前提で、説明会を行なってきたので、11月に説明会をしても2月ぐらいに各3中学校でもう一度説明会をするという手順になっていた。今回の6年生の児童については、そのまま勝山中学校に入学するという形になるので、この二つの会をミックスしたような形で説明会を持てないかと考えている。日時としては1月21日にジオアリーナで同様に市内の6年生の皆さんと保護者の皆さんにも集まっていたきたいと考えている。最初に30分程度、交流会ということで、簡単なゲーム等をして、150人ぐらいが集まると、こんなぐらいの規模になるんだということを実感していただくとどうかなと考えている。それから最初の勝山中学校の魅力ということで、この時点でまだ校舎が完成していないが、どのぐらいの規模になるのかとか、新しい学校の校訓であるとか、どのような事業があるのかというようなことを説明させていただく。それから、これはイメージ動画だが、新しい校舎がどのような形でできるのかということを見ていただこうかと思っている。それから、先ほどから言っている中高連携制度が入るので、高校に行く時にこのようなシステムがあるというようなことも合わせて表記をしておきたいと考えている。2番目からは、新しい学校の説明会として、学校行事がどうなのか、学習の評価がどうなるのかとか、こういったことを縷々説明していきたいと考えている。入学までの準備として、学用品等の準備とか小学校卒業した後、中学校とどのように連絡を取ればいいのかとか、あるいは連絡先としてホーム&スクールの登録の方法等を説明させていただく。合わせて、年度初めの行事として学級発表がいつあるとか入学式への案内について同封するとか、初めの授業参観とかPTA総会なのか委員会なのかよくわからないが、この辺りについて説明していくというのがよろしいのではないかと考えている。それから、現在の1、2年生の皆さんが今度は勝山中学校に移るということになるので、この説明については11月末から12月ぐらいの時期に、我々が学校の方を回って、新しい中学校はこうなるということを説明するのがいいのではないかと考えている。この1、2年生については、既に中学校生活をしているお子さんなので、大幅にものが変わるというわけではないため、勝山中学校だから変わるものについて、焦点を絞って説明をさせていただければと考えている。簡単だが、説明は以上である。

部会長 ・ 学校説明会について何か質問、意見があれば願います。よろしいか。

事務局 ・この学校説明会については、時期が迫ったら、具体的にしたものを見ていただいて、皆様方から意見をいただければと思っているので、よろしくお願いします。

(マイナンバーカードについて)

部会長 ・では最後に(4)マイナンバーカードについてお願いします。

事務局 ・マイナンバーカードについては、私の方から説明をさせていただく。横の資料をご覧ください。この内容というのは、PTA部会と施設整備部会でも説明をさせていただいて、その都度都度、いろいろ意見をいただいているので、その内容も修正しながら説明資料を作っている。何回か聞いたことがある方もおられると思うが、また説明を聞いていただければと思う。なぜ学校でマイナンバーカードを利用するのかというところだが、一番の目的と言うのは資料を一枚めくっていただくと、マイナー救急による安全確保ということで、書かさせていただいている。こちらについては市としてもマイナンバーカードを携帯していただくことで、マイナ救急、令和7年度の10月から勝山市の方でも始まっているが、こういったことに対応していただくということで、マイナンバーカードの携帯の方を進めていくという方針を立てている。マイナー救急というのはどういったものかと言うと、万が一の怪我や急病で救急搬送される際に、救急隊員がマイナンバーカードを持っている方であれば、そのマイナンバーカードに病歴とか、薬の処方箋のこと、過去の病歴、受診歴というものがあって、スムーズに情報として救急の隊員が知ることができる。今、この方はどこに搬送すればいいのかということが、直ぐに対応ができるというところで、このマイナ救急が今全国的にも進められてところである。勝山市の救急というところで、次のページに書かせていただいているが、令和7年度の救急搬送の状況を調べてみた。搬送人員は合計で923人の方が救急で運ばれている。年齢区分というところで、新生児、乳幼児、少年、成人、高齢者とあるが、その区分については右側に書いてある通り、新生児は生後28日未満、乳幼児は生後28日以上満7歳未満、少年は満7歳以上満18歳未満、成人が満18歳以上満65歳未満、高齢者が満65歳以上となっている。こちらを令和7年の4月1日現在の住民基本台帳でみると、このような数字になっていて、割合でいくと、少年は1.29%の方が緊急搬送されているという数字が出ている。これを中学校大体450人ぐらい集まるとすると、5、6人は緊急搬送をされているような、これはあくまでこの割合だけの話でやっているが、そういう数字が出る。ただこれがどこで起きるかは、まだ分からないところであるが、実際過去にも、学校に救急が来た事態もあったので、ない話ではないと思っている。これが目的1として、マイナ救急による安全確保ということで、学校で来る時に持って来ていただけると、生徒の方の救急があった際に、命の安全が守られるのではないかとということで考えた。もう一枚めくっていただいて、もう一つの目的として、デジタル社会に慣れ親しんでいただきたいというところである。国の方はマイナンバーカードとマイナ保険証や免許証など身分証明書というのを機能の追加を進めているところである。また勝山市でも、先ほど言ったように、市民にマイナンバーカードを変更していただけるような施策を、取り組んでいるところである。こうした社会に適用できるような生徒さんになってほしいということ

もあり、日常的に身分証明書として活用していただくことで、そうしたきっかけ、考える機会にしていきたいと考えている。今どういったことで使おうかというのは考えているところだが、ジオアリーナからの地下横断歩道のところで、中に誰でも入れないように、セキュリティをかけるところだが、こちらのドアの開閉というのも、持ってきていただいたマイナンバーカードを使って開けられる仕組みにしたいと考えている。もう一つはメディアセンター、図書室の貸出カードとしての活用を考えている。これまで説明してきた中では、朝の出席の確認というところを入れていたが、なかなか先生方からそれは厳しいのではないかとというところがあり、持って来ないと出席扱いにならない。そんなことはないのだが、確認作業というところ。また今、地下横断歩道と生徒玄関の方に、読み取りの機器を設置する予定をしているが、それでも混雑するのではないかとというところ。忘れた時の対応になると、なかなか先生方の対応が難しいというところがあった。今考えているのはそういった出席の確認ということではなく、持ってきていただくと、生徒にとっていいようなこととか、先生方にとっても業務が軽くなるようなことを今後考えていきたいと思っている。こうした内容については、市P連の方とか先生方と相談させていただきながら、市として、生徒の安全を守ろうというところで、マイナンバーカードを携帯していくことを進めていくところで、一番良いやり方を考えていきたいと思っている。次のページに進ませていただくと、一番心配されるのがカードの紛失というところだが、こうした紛失が起きたとしても、そうした際のマニュアルを作成して、教員や生徒がすぐに対応できるようにしたいと考えている。マイナンバーカードの紛失となると、再発行には手数料がかかるので、そうしたことの費用が保護者の負担にならないようなことは、考えていきたいと思っている。次のページに進めさせていただくとマイナンバーカードに実際どういった情報が入っているのかということを書かせていただいた。マイナンバーカードの個人情報となると、まず券面カードに書かれていた情報だと、表面に氏名、住所、生年月日、性別、顔写真、有効期限がある。また裏面を見ていただくと、マイナンバーと氏名、生年月日があるが入っている。ICチップがカードに埋め込まれているが、そちらの方には券面と同じ情報、それとは別に電子証明書というものと自治体が独自サービスができるようになっているが、それに使用する領域の部分がある。ただICチップについては、こうした情報を読み取るには暗証番号が必要となっている。もう1ページめくっていただいて、カード自体に入っていない情報というところになる。情報の紐付けはされているが、税金の情報とか、年金の情報、医療・健康情報、金融・資産情報というところは、管轄する行政のサーバーにデータが入っていて、マイナンバーカードを通すことで、そういった情報の読み取りが可能というものになっている。カード自体を紛失したというところで、こうしたプライバシーの高い情報というのは、流出しないような作りになっている。こうしたことも、いろいろ理解いただきながら、心配されることはたくさんあるとは思いますが、できるだけ、マイナンバーカードを学校に持ってきていただけるようなことでやっていきたいと思っている。めくっていただくと、Q&Aということで、これまで説明してきた中でも聞かれることがあったので、Q&Aを作った。マイナンバ

ーカードを必ず持ってこないといけないのかというところだが、マイナンバーカードの取得はもともと任意であって、持っていないと学校に入れないよということではない。緊急時に生徒の命を守るために、マイナンバーカードの携帯推進と、デジタル社会への適応のためと書いてあるが、そういったことでの取り組みととらえていただければ思う。毎日持ち歩いて、カードを紛失するのではないかというところだが、生徒がむき出しのまま持ち歩かないように、入学記念品という形でカバン等にぶら下げられるようなカードケースの配布を今後検討していきたいと思う。次のQ&Aの3番の方に行くと、落としたカードを偽造して利用されるのではないかと、写真の偽造とかもこの以前の部会でも言われていて、マイナンバーカードの写真のところを見ていただくと、偽造がされにくいように背景が透かしてあったり、境界の部分は特殊なぼかしというのが施されている。またマイナ保険証などの確認の際はICチップに顔写真がチップの中にも入っていて、券面の方では違う顔写真であったとしても、中のチップに記憶されている顔写真で本人確認がされるので、そうした偽造がされていても分かるというか、いろんなセキュリティがマイナンバーカードにはされている。先ほども説明させていただいたが、セキュリティや個人情報の流出も心配というところだが、確かに券面に書いてあるようなことは調べることはあるが、重要な情報、医療情報だとか税情報といったところのプライバシー性の高い個人情報は入っていないので、他人が入っても、すぐに停止の手続きをしてしまえば、使えないようになっているので、そうしたことを理解していただけるように、マニュアルを作成し、教員や生徒もすぐ対応できるようにしていきたいと考えている。説明としては以上である。

- 部会長
- 委員 1
- ・ マイナンバーカードの携帯について意見、質問等あればお願いします。
 - ・ 前回もこのマイナンバーカードのことで話していただいたが、マイナンバーカードでマイナ救急については、いろいろ分かるからいいと書かれているが、このクエスチョンを見ると、医療情報はこのマイナンバーカードでは見られませんかと書いてあって、矛盾している。本当にマイナ救急というところにおいてこのマイナンバーカードは役に立つのか。
- 事務局
- ・ マイナ救急の説明をさせていただくと、救急隊員は、その方がマイナンバーカードを持っていると、そのマイナンバーカードを専用の機器で読み取ることができる。その読み取った情報が医療情報にアクセスできるようになっていて、救急隊員についてはそういったやり方で、その方の医療情報を読めるようになっている。これはその方の意識がなくても、マイナンバーカードさえあればそういう確認ができるようになるので、マイナ救急の推進を言われている。
- 委員 2
- ・ やはり中学生がマイナンバーカードを持つのは絶対なのか、マイナ救急であるのはすごくいいことだと思うが、地下通路で開ける。体育の授業も体操服だけになってカードを持って出る。また戻る。忘れ物取りにまた行く。ずっと携帯していないといけないことを中学生ができるのかなという素朴な疑問がある。それを明日持って来るようにと言う先生方の手間ではないが、家で体調が悪くなった時のことを考えるとやはり家にも持って帰らないといけない。なかなか想像がしにくいというか普段の生活でそこまでできるのか

	という方が強い。
事務局	・実際に体育の例を出されたので答えさせていただくと、体育は基本的にはジオアリーナを使う予定はない。勝高の体育館を使わせていただく。ただ行事は、ジオアリーナでやるということはあるかと思う。先ほど、常に携帯させていくということがあったが、それもどこまでやるかというところもある。実際カバンの中に入れて、保管していただくのか、また別で保管庫みたいなものを用意しておいて、登校したら入れておくのがいいのか、そのやり方はいろいろ運用の方で考えていきたいと思っている。実際、学校の中で常に携帯しないのなら、ジオアリーナに行く時は、例えば先生とか、どなたかがそのカードで開けるというやり方もあると思うし、考えていきたい。
委員 3	・私の記憶が正しければ、このマイナ救急で、何かあった時にこのマイナンバーカードを持っていれば、救急隊員が過去の病歴とかアレルギーとか、何を飲んでもるかとか、全部見れるという認識をしている。確か本人さんの同意が前提だったのかなと記憶している。確か病院に行っても同意しますか、しませんかと問われると思う。そこで多分同意しませんでしたら、病院も病歴とか見れないはずになっているので、もしこれを運用するとなると、全員が同意するという前提でやらないと難しいのかな。すごくいい制度なので、このマイナ救急に関しては同意できる方は本当にやってもらった方がいいと思うが、中には自分の病気のことを知られたくないとか、難しい病気を持っている人とかだったり、全部それで見られてしまうので、どうなのかと思った。
事務局	・確かに、意識のある方に対しては同意を求めるということはあるが、ない方については本人の同意なしでも対応は確認できるというようになっているので、その状況がどういう状況であるかというところもあるかもしれない。ただ本人のそういった状況が一番すぐ分かるものではあるので、そういったこともあって、市としても、マイナ救急についてはいろいろ理解をいただきながら、進めていかないといけないとは思っている。
部会長	・ちなみに勝山高校は携帯電話なのか。
委員 4	・これを利用するには、高校生も必要になってくると思うが、勝山高校の高校生も利用するには必ず持つということになる。
事務局	・これまでも言ったが、今のところ必ず持つようにという考えではない。ただ何がしかの代わりになるもの。例えば通学で朝、高校生の方だと、スマートフォンを持っていたりとかするので、スマートフォンでもそういったフェリカの機能があれば、それを活用していくことができる。授業の時とかで移動が必要な時は、先生方かどなたが開けて通すようなことでできないかなと考えている。
委員 5	・運用の仕方は、きちんと共通理解する必要があると思うが、高校になると勝山市外から通っているお子さんもいるし、今年は東京から来ているお子さんもいて、その場合に再発行はどうなるのかと考えると、そういうお子さんに限っては別のカードを用意してもらおうとかしないと再発行にかなり時間がかかるということと勝山市内ではない子たちが通っている高校だと、どうなのかというところも見据えていかないといけないと思っていて、そういうところも含めて、移行していくことになると思う。勝山中学校で新たな子が入ってくると、それが必要になるかもしれないが、3年とか移行期間というのは、

いろんなパターンがあるし、高校は市外だけではないという生徒がいることも前提で、そういう先を見据えてやってもらわないと、職員の対応として、出欠の確認はもうしないということも聞いたし、二つのことしかないということだった。カードを紛失することと、市外の生徒のこと、そういうところの見込みも含めて、考えていただきたいと思う。先ほどの同意をするかしないかという病院のことだが、意識がなかったら、救急隊員の人は見れるというのはあるのだろうが、そもそも病院にかかった時に、絶対にオープンにしないとなった子のデータというのはどうなのか。病院にかかった時に最初どうしますかのところを同意せずにいた子達がいた時に、アクセスしても出てこないのではないかという素朴な疑問。無意識だった時には、アクセスすることは同意がなくてもできるかもしれないが、それまでに同意をしなかった子たちの情報はないのではないか。初心者で分からない。そういうことがあるのではという懸念がある。

事務局 ・そここのところは、高校ともいろいろと協議をしながら進めていきたい。先ほどのことはこちらでも確認させていただいて、今後の検討にさせていただきたいと思う。

委員 6 ・私みたいな全然知らない人も多いし、それを知らせなくてはいけないし、例えば市外とか県外の高校生がいるということを、年頭に置いていただければいいかなと思う。よろしく願いたい。

部会長 ・他に何かあれば。マイナンバーカードの方は、今後また議論していただきたい。ちなみに福井県内でそういう学校はあるのか。

事務局 ・聞いたことはない。

部会長 ・勝山市が最初になる。

委員 7 ・全然関係ない話かもしれない。マイナンバーカードのことを教えてほしいのだが、A Iの方で調べると、結構自治体の利用の仕方が、分けられてくると書かれていて、自由は高いのかなと感じた。例えばGPS機能をマイナンバーにつけるとかはできないのか。

事務局 ・マイナンバーカードの独自利用というのはあるが、図書カードで見ると、この方の図書カードとして登録するナンバーとマイナンバーカードに入ってるナンバー、数字が格納される。それと紐付けるというだけで、今言われるようなGPSとか、そういった本機能のものが使えるわけではない。

委員 8 ・もしつけられたら面白いというのと、なくしたらということがなくなるとか、いろんな安全面というところも踏まえて、マイナンバーの価値が高まると、皆さんの方もマイナンバーの不安みたいところを解消できるかなと思った意見になる。

部会長 ・他にいかがか。では協議事項、報告事項を終わらせていただく。今後いろいろ決めなければいけないことがあるので、事務局の方で練っていただいて、良いものになるようよろしくお願いします。では、事務局の方にお返しする。

事務局 ・本日はお忙しい中、誠にありがとうございました。本日いただいた意見を、踏まえて、作業を進めさせていただく。今後もどうぞよろしくお願いいたします。それでは以上で第1回学校運営を修了する。どうもありがとうございました。

- 資料 1. 令和 8 年度中高連携推進委員会 各部会協議概要
- 資料 2. 閉校・開校に係る諸行事について（案）
- 資料 3. 令和 9 年度中学校入学生交流会・勝山中学校説明会実施要項（案）
勝山中学校説明会（中学校 1, 2 年生対象）実施要項（案）